

2024 年度各入学式式辞

2024 年 4 月 1-2 日

田中愛治

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生を育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたい気持ちもありましたが、この早稲田アリーナの前の道路や交差点が危険なほど混雑することもあり、ここ数年間は新入生の皆さんだけの出席をお願いしています。ご理解いただければと思います。

本日は、皆さんのご入学に際して、私から二つのことをお話ししたいと思います。一つは、新入生の皆さんに早稲田大学で、どのように学んでいただきたいのかというお話と、もう一つは、皆さんに早稲田でどのような学生生活を送ってもらいたいのかというお話です。

現在、私が早稲田大学の目標として掲げているのは、2040年には日本で最も、2050年にはアジアで最も学びたい大学と世界中の人に思われるような大学になるということです。

このことは、必ずしも入試の偏差値で日本1になろうとか、ノーベル賞の授賞者数でアジア1になろうとか考えているのではなく、「世界人類のために貢献したい、もしくは日本社会の発展のために貢献したい」と思うのならば、早稲田大学で学ぶことが最も有効だと、世界中の知識人に思ってもらえるような大学になることです。これは、実現不可能な夢ではないと考えています。

そのためには、新入生の皆さんにも大きな夢を持って学んでいただきたいと思います。私が現在、総長として提唱している理念が3つあります。それは、「たくましい知性」と、「しなやかな感性」、それに「響き合う理性」です。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解と証明されているものはありませんでした。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、地球上の至る所に存在する貧困と格差の解決法も、また世界各地で起きている戦争・紛争・武力侵攻によって多くの人々が

命を落とし、人権侵害が続いている状態など、どれも正解を見つけにくい大きな問題です。

これからの社会で皆さんが生き抜いていくためには、是非とも早稲田で「たくましい知性」を育み、自分の頭で、自分なりの解決策を提示できるようになっていただきたいのです。ただし、「自分の頭で考える」と言っても、ただの思い付きでは、現実の社会では通用しません。そのためには、学問を身に付け、たとえば自分の頭で考える必要があります。

学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。もちろん、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、その時代、その時代に未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に直面した時には、早稲田で修得する学問を基礎において、自分の頭で解決策を考えることが、有効な方法になります。

次に、「しなやかな感性」とはどういうもので、何故必要なのでしょうか。人類には、異なる国籍・民族・言語・宗教・文化・信条、さらに異なる性別の人や性的少数者の人々もいます。それらの自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる感性を私は「しなやかな感性」と呼んでいます。

これからは、世界がボーダーレスとなり、日本でであろうと海外であろうと、様々な人々と一緒に仕事をしたり、生活を共にしたりすることは不可避です。そのような環境では、自分と異なる立場の人々のことを思いやる気持ちが大切です。そのためにも、早稲田大学で「しなやかな感性」を育んでください。

「しなやかな感性」を育むのに、私が最も効果的だと思うのは、留学をして日本以外の国に住んでみて、多様な人々に触れあい、外から日本を見つめる経験を持つことです。早稲田大学は、コロナ・パンデミックの前の2019年には、日本の大学で最多の4,580名の学生を海外留学に送り出しており、日本で最多の8,350名の海外からの留学生を受け入れています。皆さんも、是非とも交換留学などの機会を見つけて、海外で学ぶ経験をしてみてください。

3つ目の理念は「響き合う理性」です。この理念は、自分と異なる考えを持

つ人の意見にも耳を傾け、対話を通して互いに高めあうことを目指しています。早稲田という研究力の高い大学で学ぶ皆さんは、ご自身の理性を鍛え、自信を持ってもらいたいのですが、同時に、他の人の理性にも敬意をもって接してもらいたいということです。

「たくましい知性」と「響き合う理性」を早稲田の学生の皆さんに育んでもらうために、早稲田大学では過去20年の間に、どの学部の学生にも学べる科目を設置し、さらに体系的のある学びの場として、グローバル・エデュケーション・センターを10年前の2014年に本格始動しました。

早稲田大学では、日本の他大学に先駆けて2004年から英語の発話を学ぶ「チュートリアル・イングリッシュ」を全学の学生に提供しており、2017年からは英語の論理的な文章作成の科目「Academic Writing and Discussion in English (AWADE)」を教えています。同時に、日本語を論理的に書く「学術的文章の作成」は2008年から、文系の学生向けの「数学の基礎」は2009年から、すべての学部の学生に提供しています。さらに、2018年には「統計学入門」を発展させて「データ科学入門」を設置し、AIによってビッグ・データを分析する手法の入門から中級・上級までを揃えました。これらの科目は、どの学部の学生でも履修できるグローバル・エデュケーション・センターの科目です。皆さんは、このグローバル・エデュケーション・センターを利用して、学部の垣根を越えて、全学共通の科目や、他学部の科目を是非履修してください。

「たくましい知性」と「響き合う理性」というアカデミックな資質を強調している理念のほかに、「しなやかな感性」も大切な理念としてお話ししてきた理由は、これら3つの理念は、実は早稲田大学の建学の精神に通じているからです。

早稲田大学の創立者である大隈重信が唱えた建学の精神の中に、「一身一家一国の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」という理念があります。この言葉は、大隈重信が創立30周年の時に掲げた三つの建学の精神である、「学問の独立」「学問の活用」と共に述べた「模範国民の造就」の解説として述べられました。

私は、この「一身一家一国の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」という言葉が、早稲田大学の学生の気質を表しているという気がしていて、好きです。これは素晴らしい理念だと、私は思っています。

私は、この建学の精神を知っていただくために、2022年4月の入学式から、新入生の皆さんに『大隈重信と早稲田大学』という早稲田大学新書を、お配りすることにしました。是非読んで、早稲田の伝統を理解してください。

建学の精神、特に「しなやかな感性」につながるエピソードを1つ紹介しましょう。2011年3月に東日本大震災が起こりました。その年の春学期には早稲田から多くの学生がボランティアとして東北地方に向かいました。延べ数で6千名が参加し、その後も継続して累計で延べ9千名ものボランティアが早稲田から参加してきました。その学生たちは、寝袋と食料と水を持参して、地元の方たちに迷惑をかけないようにして、夜行バスで行き、土日にボランティアに参加したのです。中でも、気仙沼には震災後から今日まで10年以上の間、早稲田の学生がボランティア活動が続けているのです。そのおかげで、今でも、大学1年生や2年生で初めて気仙沼に行った学生にも、「早稲田生です」というと、「お帰りなさい」「ありがとう」と言ってくれるそうです。それだけ早稲田の学生のボランティア活動は、気仙沼の人たちに感謝されているのです。

今年は1月1日に能登半島で大地震と津波が起き、大きな被害がありました。福岡県博多の江崎さんという早稲田の校友は（早稲田では卒業生を校友と呼んでいます）、震災地へのボランティア活動のNPOを立ち上げ、各地の被災地を支援してこられました。今年も能登半島の珠洲市をはじめ能登の震災支援をされています。珠洲市の泉谷市長も、石川県の北國新聞前社長の温井さんも早稲田大学の校友ですので、私も江崎さんをお二人にご紹介しました。さらに日本財団からの被災地への支援のお申し出も、珠洲市の泉谷市長と北國新聞の温井前社長にご紹介しました。これらの校友のネットワークが上手く機能するのも、「一身一家一国の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」という、建学の精神に根差した社会貢献活動の一端だと思います。

早稲田大学では、今年の4月1日に、グローバル・シティズンシップ・センター（Global Citizenship Center）を設立し、ボランティア・センターの活動などこれまで続けてきた様々な社会貢献の活動を体系的にまとめて、学生の皆さんが参加しやすくなる予定です。

それでは、ここからは、私が新入生の皆さんに早稲田でどのような学生生活を送っていただきたいと思っているかを、少しだけお話ししましょう。

早稲田には誰にでも居場所があります。つまり、早稲田は多様な学生を受け入れること、そしてどのような背景を持つ学生も仲間として大切にしてきたという伝統があるのです。今日の言葉で言うダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（それを包摂する心の広さ）が伝統です。ですから、誰にでも居場所があるのです。

何かやりたいことや、困っていることがあれば、先生方でも、職員の方でも、場合によっては友達や、サークルや部の先輩に相談すれば、きっとご自身のやりたいことが、見つかると思います。早稲田は、学生の求めることは、ほぼ何でもできるような環境を整えています。学問・研究でも、体育各部の競技スポーツでも、サークル活動でも、ボランティア活動でも、様々な学生のニーズを満たすような多彩な環境があります。何にでも挑戦してください。ただし、真剣に学問を学ぶことも忘れないでください。

最後にお伝えしたいのは、新入生の皆さんには早稲田の学生生活での良い思い出も作っていただきたいということです。良い思い出作りに欠かせないのが早稲田スポーツです。中でも、神宮球場での六大学野球の最終戦となる早慶戦は有名です。野球の早慶戦は5月と10月末に2度ありますが、なるべく早く、野球の早慶戦を見に行き、先輩たちの母校愛に触れてみてください。きっと良い思い出になると思います。

また、野球の早慶戦以外にも、11月23日にはラグビーの早慶戦があり、1月にはラグビーの大学選手権があり、箱根駅伝もあります。それ以外のスポーツ観戦や、学園祭である「早稲田祭」にも参加して、早稲田の学生生活を楽しんでください。

このように早稲田の学生生活を楽しむ中で、是非とも卒業までには、「都の西北」で始まる早稲田大学校歌を3番まで歌えるようになってください。そのことが、社会に出てからも先輩後輩たちとつながることに、大いに役に立ちます。

それでは、皆さん、早稲田で思う存分、勉強し、自分のやりたいと思う活動にも力を入れて、充実した学生生活を送ってください。4年後には、より逞しくなって、よりしなやかに輝いている皆さんを、今よりも輝いている早稲田大学が、送り出したいと思います。

To those incoming students who prefer English, I would like to welcome you briefly in English.

Congratulations on your admission to Waseda University, and welcome! Waseda offers you an environment in which you can thrive and excel.

I hope you will let your curiosity roam while you are here, and become an intellectually broader and more creative person than when you arrived.

I know you will work hard, but it is vital to take care of your emotional and physical health as well.

Enjoy rewarding activities, and invest in nurturing friendships.

Best wishes for your studies and student life at Waseda!

新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます！